

**令和4年6月第2回 木島平村議会定例会**  
**《第3日目 令和4年6月9日 午前10時00分 開議》**

**議長（萩原由一）**

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の順番については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

5番、丸山邦久 議員。

（「はい、議長。5番。」の声あり）

（5番 丸山邦久 議員 登壇）

**1. 地域活性化起業人について**

**5番 丸山邦久 議員**

それでは質問を許可されましたので3項目にわたって質問をさせていただきます。

1項目目、地域活性化起業人についてであります。令和3年度から本村は地域活性化起業人、長いので以下「起業人」とさせていただきます。起業人を受け入れています。令和4年度で2年目になりますが起業人の活動が見えてきているように思えません。総務省の説明では「自治体のメリットとしては民間企業で培われた専門知識・業務経験・人脈やノウハウを活用して外部の視点・民間の経営感覚・スピード感覚を得ながら地域の取組を展開できる」としてあります。が、しかし少なくともスピード感覚は全く感じられないわけであります。

むしろ協定期間の3年を目いっぱい使って、必要以上にゆっくり仕事をしているようにさえ見えます。

それもこれも起業人の活動が見えてこないことが原因ではないのかと考えます。

そこで、起業人の取組について具体的にどうなっているのか説明を求めるものであります。

質問1点目、起業人を受け入れた村の目的は何でしょうか。

2点目、年間760万円、この中には事業委託費100万円が含まれますので、協定会社への負担金、報酬と考えて良いと考えますが660万円、今年度で合計1,520万円支払われることになりましたが、この金額に見合った成果が出ているとお考えでしょうか。

3点目、起業人の勤務実態はどうなっていますか。一か月当たり何日、一日何時間の勤務かお答え願いたいと思います。

4点目、起業人の業務内容。これは昨年、起業人が就任するに当たって提出された資料に記載されていますが、その進捗、つまりどの程度進んでいるのかを伺います。

一としまして、木島平村観光振興にかかわる統一コンセプト、コンセプトというのは企画・広告などで全体を貫く統一的な視点や考え方を言うと広辞苑には出ていました。統一コンセプトの立案の進捗状況はどうなっているのでしょうか。

2つ目、地域資源の発掘、コンテンツ化。コンテンツとは放送やインターネットで提供される音声・動画などの情報の内容のこと。これも広辞苑にこう書かれてありました。これをつくるとあります。進み具合はどうなっていますか。

3点目、地域活性化起業人活動にかかる定期ミーティングの運営とあります。この運営状況はどうなっていますか。

5番目の質問として、コロナの影響で人の動きが悪いのはとても良く理解できます。このような時期だからこそ状況が改善したら速やかにスタートできるように統一コンセプトやコンテンツの整備をしておくべきだと考えるのですが。お考えをお聞かせ願いたいと思います。

**議長（萩原由一）**

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

**村長（日碁正博）**

丸山議員の地域活性化起業人についてのご質問ですが、このご質問については担当課長に答弁をさせます。

**議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

それでは丸山議員のご質問に答弁をさせていただきます。

「地域活性化起業人制度」は、民間企業の専門知識やノウハウ活用しながら人口減少などの地域課題を官民間わず共有し解決を図るため、都市圏の企業が地方自治体へ一定期間人材派遣を行い、共にその課題を解決し、地方へ人の流れを創出する目的の制度であります。この制度は6か月以上3年以内の期間、継続して人材派遣に要する経費560万円を、起業人が企画提案した事業を実施する経費に対して100万円を上限として交付税措置されるものです。

協定している企業は各地域の資源開発などを行い、インバウンドなどの個人旅行を中心とした商品開発や企業コンサルタントなどを手がける東京都の合同会社シュタインから人材派遣を行っていただいております。

1点目のご質問の制度導入の目的は、木島平村の観光についてはスキー場を中心とした施設型観光を通して地域の活性化を進めてまいりましたが、レジャーの多様化やスキー人口の減少、スマートフォンなどの普及による情報通信技術の大きな変化による時代背景もあり、ますます進むニーズの多様化と情報共有のスピード化に対する課題がありました。

また、宿泊事業者を中心とした観光業界から多様な事業者の連携により村全体を活用しながら活性化を図る目的で設立した村の観光振興局も広域連携や多様な観光事業を行うためには、ノウハウと専門知識、人材開発能力を持った人材の活用といった課題がありました。

そういった制度や人材を活用しながら新たな視点から村の魅力を発掘し、形にし発信していくことで今後の木島平の活性化につなげることを目的としたところであります。

現在、活動2年目となりますが、客観的な視点で地域に入りながら村の魅力を探り、地域おこし協力制度を活用しながら、村の魅力を新たな視点で展開していただく予定としております。

次に3点目の勤務実態についてでありますけれども、起業人受入れに当たっての業務協定では、派遣に係る委託料として年間660万円を派遣の協定額とし、起業人が企画提案した事業実施に係る経費100万円については予算化をしております。協定期間は令和3年4月から3年間とし、月のうちおおむね半分程度を勤務日として、時間については通常の職員と同じ8時30分から午後5時15分を基本としています。引き続きコロナ禍で積極的にリモート業務も行っていただいております協定以上の実態をしていただいている状況であります。

つぎに2点目、4点目のご質問で、経費に見合った成果ということでもあります。

協定内容に基づき3年間の中でスケジュールに基づき最終的には成果として捉えております。起業人の業務内容として大きく3つございますが、1つ目、村の観光振興に係る統一コンセプトの立案。2つ目地域資源の発掘・コンテンツ化・発信。3つ目地域活性化起業人活動にかかる定期ミーティングの運営を中心に進めていただいております。

1つ目の統一コンセプトの立案ですが、昨年の11月からコンセプト検討委員会を立ち上げ、3回の委員会開催を経て素案ができております。この後、観光振興局において提案をさせていただき、それを指針として具体的な事業にしていく予定であります。

2つ目の地域資源の発掘・コンテンツ化・発信ですが、昨年から資源の発掘を続けており、今年の8月を目処にコンテンツ化・商品化し、運用販売を開始する予定です。

また、情報の発信については、本年9月をめどに観光振興局の公式ウェブサイトである「めぐるきじまだら」をリニューアルし、本年後半にはコンテンツ販売システムを整備する計画としております。また、今年度に入り地域おこし協力隊も加わり発信力の強化もしているところです。

3つ目の定期ミーティングですが、5月、8月、11月、3月の年4回派遣会社と開催をしており、各種業務の進捗具合や今後の計画、また、新たな事業の検討などを行っており、今年度から具体的な成果が見えるよう展開をしているところであります。

最後の統一コンセプトについては、議員ご指摘のとおり、誰もが分かりやすく村の将来を目指す先をイメージできるようなコンセプトの実現に期待をしているところであります。

## 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

### 再質問

#### 5番 丸山邦久 議員

再質問をいたします。

起業人を登用した目的が「木島平村の活性化につなげる」とのことでした。是非、起業人の持つ能力を最大限に引き出して、村の活性化につなげていただきたいと思います。

木島平の人は、外から来た人にとっても寛容で、寛大で、遠慮深く見えます。時給6,875円というお金で雇っているわけですから、ドライに割り切ってどんどん要望を出しても良いのではないのかなと思います。

答弁をお聞きして気になるのが、村にとって大事な統一コンセプト、これを起業人主導で行っていることでもあります。日置村政は、全てが人頼み、人任せに感じるところがあります。スキー場もパノラマランド木島平もやまびこの丘公園も馬曲温泉も企業に譲渡する。ファームス木島平も企業に委託しようとしています。観光振興局も起業人任せになっている。こんな風に私が感じているわけです。

せめてコンセプト作りぐらいは、村主導で起業人のアドバイスを得るような形でできなかったのかなと、そんな風に私は思っています。素案ができているということなので発表を待ちますが、とても気がかりなことです。

それでは具体的に質問をいたします。

この統一コンセプトの発表時期は、いつになるのですか。

2点目、リモートでも仕事をしているということですから、となるとコンセプトやコンテンツの出来上がりで評価することになると思います。リモートでは仕事をしているかどうかわかりません。コンテンツの出来上がりで評価するということが良いのですか。出来が良くないと判断した場合、2年で打ち切りということもあり得ますか。

以上、2点お願いします。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは丸山議員の再質問にお答えいたします。

活性化に向けて起業人を最大限に活用していくことはごもっともだと思っております。今後更に成果が見える形にしていけるようお願いをしまいたいと思っております。

ご質問のコンセプトの発表時期でございますけれども、これから行います観光振興局の総会に向けて発表をして、いったん観光振興局の方で発表をしていきたいと思っております。

2点目でございますけれども、コンセプトの出来によって起業人の先というお話でございますけれども、それを作ってその後どういう展開をしていくかということが一番重要だと思っておりますので、そういった事業展開も含めて、改めて起業人と共に、村もその中に当然入っていきますけれども、活性化に向けた村づくりにつなげていけるよう事業展開を一緒に考えていきたいと思っております。

**議長（萩原由一）**

丸山邦久 議員。

## **再々質問**

**5番 丸山邦久 議員**

この事業に関しては村の負担が100万円ですね。まさかとは思いますが、100万円を基準にして考えることはないと思いますが、まさか100万円ではないだろうかと期待しております。660万円を基準に事業の評価をしていくかどうか、その点をお聞きしたいと思います。

**議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

**産業課長（湯本寿男）**

それでは再々質問にお答えします。おっしゃるとおり、当然かけた経費の成果で見していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

**議長（萩原由一）**

丸山邦久 議員。

## **2. 人材育成について**

**5番 丸山邦久 議員**

今のお答えにとっても期待をしておりますので、よろしく申し上げます。

さて、次の質問をいたします。

2番目として、人材育成についてであります。

平成30年6月議会において、当時副村長は副村長就任にあたって「特に力を入れたいことは、人材育成。それにはまず自らが学んでいきたい。」と初心を述べられております。正に「初心忘るべからず」の初心を表明されました。

1年3か月後の令和元年9月。これは私が質問したのですが、「この1年間に何を学び、どのような成果が得られていますか」と質問すると、「成果はまだまだ現れていないが、引き続き自らの最重要課題として取り組んでまいりたい」と答弁されました。

その答弁から3年近く経過し、副村長就任から4年が経ちました。この間、何に取り組み、何を達成されたか伺います。

**議長（萩原由一）**

佐藤副村長。

(副村長「佐藤裕重」登壇)

### 副村長（佐藤裕重）

人材育成のご質問でございますけれども、丸山議員からは、以前にも人材育成についてのご質問を頂きました。その時の答弁でも「職員の仕事に対する意識や姿勢の改革、職務遂行力の向上に努めてまいりたい」と言うことも申し上げました。

取組を始めたことでありますけれども、令和2年の4月に「木島平村人材育成基本方針」を策定いたしました。この目的としましては、これからの村を担う職員として、一つには住民と協調すること、それから、限られた人員で効率的かつ効果的な行政を行う能力が必要であること、それから、社会情勢の変化に柔軟かつ弾力的に対応できる職員の育成が必要であることというようなことが記載されております。

また、昨年10月に人事評価の内容を変更し、運用を始めました。これまでは、平成22年に村で策定したものを運用してきたわけでございますけれども、これを昨年9月に内閣人事院から示されたマニュアルに変更しております。

達成したことはということでありまして、人材育成基本方針の中では目指す職員像として、住民の立場になって考え、住民と共同で村づくりを推進する職員、専門的知識・能力を身に付け発揮できる職員等について記載をしております。また、求められる能力、それから求められる意識、階層ごとに求められる能力等についても記載はあります。現在、この方針をもとに対応しているところでもあります。

人事評価制度の関係では、今までと変わりました新たなものとして、職員のやりがい向上にもつながる人材育成機能の強化ということでチャレンジ目標、困難度の高い目標を一つ以上設定することが定められました。また、管理職のマネジメント評価の充実ということで、管理職が業務運営や組織統率、人材育成に対して重点的に取り組むべきことと考える項目として、具体的に成果が評価できる目標の設定を行うことが定められました。

これらの変化も含めて、具体的な行動も着目して評価を行うこととなり、より客観的な評価が可能になると言われております。丸山議員、先ほども言われましたが、いずれも達成という段階ではございません。職員の資質向上や人材育成にこれで良いという到達点がないと思っておりますので、引き続き取り組みたいということでございます。

### 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

### 再質問

#### 5番 丸山邦久 議員

今の答弁からは、はっきりとした成果が出ているようには感じられないのです。

また、副村長が本気で取り組んでいるかどうかちょっと疑問を感じました。本気で取り組むともう少し嬉しそうに答弁をするのですよ。何か全然嬉しそうじゃない。とても残念に思います。

今、副村長がおっしゃいましたように、人材育成は人類永遠のテーマだなど、それは私も思います。せつかく自らの最重要課題だと認識しているのですから継続して取り組んでいただきたいと考えております。

再質問をします。

1点目、3年前の一般質問で、人を前向きにするにはコーチングという手法が有効であると申し上げました。コーチングについて何か学ばれましたか。

2点目、「木島平村人材育成基本方針」を読みました。とても良くできていると思います。特に求め

られる意識の中で、住民に対する意識。この説明が常に住民の立場に立ち、地域や住民に貢献したいという意識を持ち、住民と共に事業を進めていく姿勢。

もう一つ、チャレンジ意識。これは、新しい課題、困難な課題に積極的に取り組もうとする姿勢。前例にとらわれず、柔軟な発想と工夫により新たな解決方法を探り、課題を解決していこうという姿勢。

この2つには私は痺れましたね。この2つの意識づけができていれば、この後の3番目の私の質問はしないで済みます。

さて、基本方針は良くできていますが、具体的にどうすればいいかというのが分かりません。副村長の経験をもとに、例えば自己啓発の意欲を高めるためにこういう方法があるというような副村長の経験をもとにしたマニュアルを作っただけであれば、後世の職員のために大変役に立つのではないかと思うのですが、いかかでしょうか。

### 議長（萩原由一）

佐藤副村長。

（副村長「佐藤裕重」登壇）

### 副村長（佐藤裕重）

楽しそうじゃない答弁ということでございましたけれども、そんなことはございません。

まず、コーチングについてでございますけれども、当時、丸山議員からそういった手法もあるよという提案を頂いた記憶がございます。いろいろな資料を読んだりしているわけでございますけれども、コーチングにつきましては、目標達成や成長促進を支援する人材開発の一つだというようなことも書いてありますが、その中でメリットとして、例えば目標を明確にするとか、それからコーチングをすることでモチベーションが上がるとか、いろいろ書いてございます。

すべて記憶にあるわけではございませんけれども、その中で一番必要なのは、コーチングをする方の人間、コーチングをする立場に立った人間の能力が非常に大事なのではないかとことを一番考えております。また、一朝一夕に効果が出るものではないと、長く継続していくことが大事だということもあるというふうに思っています。

それから、住民に対する意識、方針の中の話でありますけれども、職員には常にチャレンジをしてもらいたいということも、毎日ではありませんけれども、申し上げているところでございます。

一番は、やはり今までやってきたことをそのままやるのではなくて、今いる立場で何を変えたら良くなるのか、そういったことを常に考えてもらいたいということ。それから、自分の担当の係だけではなくて横の係、それから、村を超えた中で、いろいろな企業の皆さんとのつながりで進めていくことができないのか、そういったことも考えてまいりたい、というようなことも事あるごとに申し上げておりますし、例えば書類等回覧できた時にそういったことも逐次申し上げているということもございます。

そういったことで、日々気がついた時にそういった意識づけをして言っているつもりではございませんけれども、それでは足りないということであれば、それはまた考えなければならぬと思っておりますけれども、そうかといって私の立場でそれぞれの職員に細かい所まで、どこまで言えばいいのかなと考えながらやっているところでございます。

それから、3点目の私の経験をもとにマニュアルを作ったらどうかということでもありますけれども、文章にしてどこまでどうなるかというのが分かりませんので、ご提案ということで考えさせていただきたいと思っております。

以上です。

### 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

### 再々質問

#### 5番 丸山邦久 議員

答弁が楽しいというお言葉を聞いて安心しました。今お聞きした中で、最重要課題とかつておっしゃってましたよね。その最重要課題にしては、決意というか、決心というか、そういうものを今感じてないんです。やはりそうおっしゃったんですから、やり通していただきたいなと思います。

できない理由を言うんじゃなくて、できる方法を考える、これも職員に教えるべきことではないのでしょうか。副村長自らそういう意識で取り組んでいただきたいと思っているのですが、いかがでしょうか。

#### 議長（萩原由一）

佐藤副村長。

(副村長「佐藤裕重」登壇)

#### 副村長（佐藤裕重）

できない理由を考えないでどうやったらできるか常に考えるということは、私も常に職員に申し上げていることとございます。私の答弁が丸山議員に対しましてそういった受け止められかたをされたのだとしたら、そういうことではございませんので、ご理解をいただきたいと思ひますし、引き続き人材育成に努めてまいりたいと思ひます。

#### 議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

### 3. 業務の迅速化を

#### 5番 丸山邦久 議員

それでは3項目目の質問をいたします。

業務の迅速化をお願いしたいということとあります。

村では、コロナ禍の影響を受けている事業者・観光業者に支援策を実施しています。このことは感謝に堪えないのでありますが、商品券の現金化に時間がかかり、かえって資金繰りが大変になっているという声を耳にします。

私も「時間がかかるものだな」と思っていました。私も持ってきたことがありますので。そこで記録を付けてみると、4月26日に村に提出した商品券が銀行口座に振り込まれたのは5月25日でした。同じような商品券を商工会に持ち込むと、当日あるいは翌金融機関営業日には振り込まれております。

記憶に新しいのですが観光（株）に対する補助金は、3月3日の議会の承認後、3月10日に極めて速やかに支払われています。このような迅速な支払いを事業者や観光業者に対してできないのか伺いたいと思ひます。

さほど難しい業務ではないように思えます。迅速に支払うことができれば受け取る側が大きく助かることとなります。どうせやるなら喜ばれる方が良いのではないですか。村長の考えを伺います。

#### 議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

#### 村長（日墓正博）

丸山議員の事務の迅速化ということですが、主にコロナ対策として支払の業務ということですので、担当課長に答弁をさせます。

**議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

それでは、私の方から答弁をいたします。

村が実施しているコロナ関連の対策事業については、大きく影響がある事業者の皆さんの負担軽減や地域経済活性化のため、村民応援商品券やプレミアム付き飲食店応援商品券、持続化給付金事業など令和3年度には2億434万円、14事業の予算をいただき実施してまいりました。

特に商品券などを取り扱う事業については、影響のある事業者の皆様にごできるだけ早く現金化ができるように努めてきたところであります。事業の財源については、国からの地方創生臨時交付金や地方交付税として措置されており、年度内に清算しなければいけない事業、経済の状況に応じて繰り越しや延長する事業といくつもの事業を同時に処理しながら対応してきた状況もあり、非常に煩雑になっていたと同時に、特に交付金などは間違っただけで交付することがあってはならないことですので、きちんと確認しながら処理してきたところであります。

職員もできる限り対応をしておりますが、事業者の皆さんの影響やご負担も考慮するとご指摘いただきましたようなご不便があった点については、改めてお詫び申し上げます。今後は、更に村民の皆様の実情を状況を十分配慮しながら、迅速かつ正確に適正な業務の執行に努めてまいりますのでご理解をお願いいたします。

**議長（萩原由一）**

丸山邦久 議員。

**再質問**

**5番 丸山邦久 議員**

私は何も詫びてもらいたくてこの質問をしているわけではないんです。

村の職員に、前の質問で言ったとおりに、住民に対する意識とチャレンジ精神をしっかりと意識づけをしていけば、この質問は不要なわけです。是非、村長自身も、また村の職員もこの意識を高く持ち村民に対してもらいたいものだなと思っております。

再質問は、支払のルールを決めたらいかがだと思います。

例えば、1日から10日に持ち込まれたものは20日支払い。11日から20日に持ち込まれたものは月末払い。21日から月末に持ち込まれたら翌10日払い。この位のスピード感をもって、ルールを決めてやっていただくと、持ち込む方も予定が立ってとても有難いと思います。

その辺、いかがかなと思いますので、ご答弁をお願いします。

**議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

それでは今の再質問の件でございますが、村の支払のルールと言いますか、決まりにつきましては、月に2回支払いの日がございます。こういったコロナ関連の対策事業には、やはり事業者の皆様こそ

ういった影響も考慮して、それに伴わないルールも必要かと思っておりますので、そういった事業の実情に応じてできるだけ早く支払の処理ができることが可能かどうか、検討をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

大変失礼いたしました。月2回と申し上げましたが、月に3回の支払となっておりますので、よろしくお願いいたします。

**議長（萩原由一）**

丸山邦久 議員。

**再々質問**

**5番 丸山邦久 議員**

前向きにご検討いただけるということなので期待をしております。

是非、先ほど申し上げましたチャレンジ精神。新しい課題、困難な課題に積極的に取り組む姿勢。課長もぜひ発揮していただいて、村の商工業者、観光業者のために頑張っていただきたいと思っております。再度お答えをお願いします。

**議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

可能なことは、できる限り対応をできるようにしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

**議長（萩原由一）**

以上で、丸山邦久 議員の質問を終わります。

（終了 午前 10時 36分）

**議長（萩原由一）**

ここで暫時休憩といたします。

再開は、午前10時45分をお願いします。

（休憩 午前 10時 36分）